

スキー場 ああ 雪不足

温暖化後は



⑤

記録的な暖冬が続く。だが数十年後は、これが普通の冬の風景になっているのかもしれない。1月の日本の平均気温は平年を1・44度上回り、過去4番目の高さだった。しかし地球温暖化の科学的根拠を集めた「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」は、今世紀中に1・8～4度上昇すると予測している。冬の暮らしや身近な自然はどう変わるのか。暖冬異変が続く列島に、「温暖化した日本」を探してみた。

（須藤大輔、桜井林太郎）

今冬は各地のスキー場で、こんな経験はないって」と管理事務所を担当者はあきらめ顔が遅れ、競技大会やイベントが中止に追い込まれた。逆にいつもなら雪で閉鎖されるゴルフ場がにぎわっている。

富山県黒部市の宇奈月温泉スキー場は、雪不足で今季はまだ1度も営業できていない。いつもなら少なくとも1

倍以上ある積雪量が19日現在で5センチ。「もう今シーズンは無理だろう。年配の人も、こ

氷上のワカサギ釣り 中止

の排出など原因が人間活動なのはほぼ間違いない、と結論づけた。日本全体では約1度、東京ではヒートアイランド現象も重なって約3度上昇している。温暖化では、異常気象が頻発するとみされる。

群馬県高崎市の榛名湖（標高約1080メートル）。例年なら、湖全体が凍って厚さは15センチ以上になり、氷に穴を掘るワカサギ釣りににぎわう。ところが今季は1月末になっても3分の1が凍らず、ワカサギ釣りは中止になった。

野口正博・榛名湖漁協組合長は「戦後、氷上のワカサギ釣りが中止になったのは初めて。今年は豊漁で客足も伸びると期待していたのだが……ショックだ」と嘆く。

IPCCの報告書は、今世紀後半までに、北極海の海水が晩夏にはほとんど消滅するとの予測を紹介。身近な雪や氷も、単なる暖冬とはかり言

野生の熊・渡り鳥にも異変

どうかは分からないが、野生生物にも異変が起きている。本来なら冬眠しているはずの熊が年明け以降も各地で出没し、被害も出ている。

福井県大野市の山中では今月5日、イノシシ狩りのハンターが熊に襲われ顔に重傷を負った。群馬や山形、新潟の各県などでも出没情報がある。今年は雪が少なく、まだエサ探しができるため熊が冬眠しないとの見方が多い。

研究者でつくる日本クマネツトワークは調査を始めた。代表の坪田敏男・岐阜大教授は「一度冬眠した熊が、空腹に耐えかねて起きている可能性がある」とみる。昨秋の大量出沒の原因となった異常な冬眠などのエサ不足に、暖冬の影響が重なったとの見方だ。

ラムサール条約に登録された日本屈指の渡り鳥の中継地、北海道苫小牧市のウトナ

を目にする事ができる。いつもならもっと南にいる時期だが、3日の日本野鳥の会の調査では1009羽が確認された。マガンが見られるのは例年なら遅くとも1月上旬までで、2月も見られるのは初めてという。

日本雁を保護する会の奥地正行会長は「ガン類の越冬地は長く宮城県が北限とされてきたが、90年代以降は徐々に北上している。ガン類は気候変動の影響に敏感に反応する」と話す。

温暖化が進むと、生態系は深刻なダメージを受ける。英国政府が昨秋に公表した報告書「スターン・レビュー」によると、世界の平均気温が1度上がると、サンゴの80%で、死滅につながる白化現象が起きる。2度上昇すると、ホッキョクグマなど生物種の15～40%が絶滅の危機に陥る。